

日本分析化学会第65年会

1 はじめに

日本分析化学会第65年会は、2016年9月14日から16日までの3日間、北海道大学工学部を会場として開催された。例年この時期の札幌は、秋晴れが続き天候の心配をすることはなかったのだが、今年は8月に三つの台風が北海道に上陸し、特に台風10号は甚大な被害をもたらしたことから、にわかには台風の心配をしなければならなかった。幸いにして台風は発生せず、まずまずの天候に恵まれたことは幸運だった。過去札幌で年会を開催するときは決まって高等教育推進機構(旧教養部)の建物を使っていたが、今回は工学部での開催となった。ポスター会場となったフロンティア応用科学研究棟は、鈴木章先生のノーベル賞受賞を記念して建てられたものだが、鈴木章先生の胸像や記念品の展示物の前でのポスターセッションは若手研究者や学生の方に大いなる刺激になったのではないと思われる。講演数は806件(研究懇談会講演, 受賞講演, シンポジウム講演

等を含む), 参加登録者数は1215名であり, 用意したプログラム集(1300部)が品切れになることを心配しなければならなかった。

2 講演

[プログラム担当: 齋藤 徹(北見工大), 会場担当: 福嶋正巳・石田晃彦(北大院工), 若手ポスター担当: 山田幸司(北大院地球環境)]

依頼講演(46件), 一般講演(319件), テクノレビュー(2件)が, 北海道大学工学部B棟, C棟, フロンティア応用科学研究棟(FCC棟)の15会場で行われた。研究懇談会は, 1日目の午前に5件, 午後3件, 2日目の午前に3件, 3日目の午前に1件, 午後1件の合計13件が開催され, それぞれの世話人のアレンジによって合わせて19件の講演が行われた。また, ポスター発表は, 1日目と2日目に若手ポスター発表218件が, 3日目には一般ポスター発表143件, テクノレ

表1 第65年会分類別講演及び聴講者数一覧

分類	依頼講演	一般講演	テクノ口頭	テクノポスター	最大聴講者数	一般ポスター	若手ポスター
01: 原子スペクトル分析		30	1		60	13	4
02: 分子スペクトル分析	1	11			40	5	23
03: レーザー分光分析	2	9			15	1	4
04: X線分析・電子分光分析	3	16			54	6	13
05: 放射化学分析	1	1				1	
06: NMR, ESR, 磁気分析		5			17		
07: 電気化学分析	1	35			40	5	8
08: センサー	3	18			41	6	21
09: 熱分析						2	3
10: 有機微量分析				1		2	
11: 質量分析		10			63	5	8
12: マイクロ分析系	4	13			30	1	7
13: FIA	1	5			30	1	2
14: LC	1	18	1	2	73	13	7
15: GC	1	3			73		2
16: 電気泳動分析		5			10		5
17: 溶媒・固相抽出法		10		1	20	10	17
18: 分離・分析試薬	2	7			24	3	7
19: 分析化学反応基礎論		7			30	2	3
20: データ処理理論							1
21: 標準試料	1	5			20	3	
22: サンプリング, 前処理		1				1	2
23: 界面・微粒子分析	2	25			34	6	12
24: 宇宙・地球		11			25	2	5
25: 地球環境関連分析	5	24			35	17	30
26: 無機・金属材料分析	1	2				5	3
27: 有機・高分子材料分析	1	5			40	4	
28: 生体・医薬・臨床	2	13			20	16	6
29: バイオ分析	7	27			60	6	18
30: その他	7	3			10	7	7
合計	46	319	2	4		143	218



北海道大学工学部 (主な講演会場)



フロンティア応用科学研究棟 (ポスター・展示会場)



受付付近の様子



ポスター会場風景

ビューポスター4件が行われた。ポスター発表とランチョンセミナーの時間帯にはなるべく口頭発表を行わない方針でプログラム編成を試みたが、実際にはなかなか難しく、一部の一般講演や研究懇談会の講演は同じ時間帯で行わざるを得なかった。

3 シンポジウム

(1) 「第3回アジア分析科学シンポジウム (3rd Asian Symposium on Analytical Sciences)」(9月14日)

[オーガナイザー：丹羽 修 (埼玉工大先端科研), 最大聴講者数 40 人]

丹羽修副会長による Opening address の後, 分析化学の第一線で活躍中のアジア地域の研究者による, Plenary lecture (3 件) と Invited lecture (12 件) が行われた。

(2) 「特別公開シンポジウム; 産業界シンポジウム」— 産業界の最前線で活躍する分析化学— (9月14日午後)
「安全・安心を守る力」, 「モノづくりを支える力」, 「科学技術を進める力」の三つの力をキーワードに産業界におけるさまざまな最先端分析研究の実例が紹介された。

[オーガナイザー：内山一美 (首都大院都市環境), 最大聴講者数 200 名]

まず, 「企業における研究開発と分析」と題して加藤信子氏 (元㈱ブリヂストン, 元分析化学会副会長) が, 次に「原子レベルキャラクタリゼーション技術による製品開発と製造プロセスへの貢献」と題して柳内克昭氏 (TDK ㈱テクニカルセンター) が, 前半の最後として須藤栄一氏 (㈱豊田中央研究所有機分析研究室) が「自動車用有機材料の分析～アミン系物質との反応生成物の分析～」と題して, “分析化学” が持つ力を具体的な事例を交えながら紹介された。

[オーガナイザー：宮野 博 (味の素㈱イノベーション研究所), 最大聴講者数 220 名]

後半の部では, 「嗜好性を高める食品香料開発における分析の役割」と題して黒林淑子氏 (長谷川香料㈱総合研究所) が, 次に橘田 規氏 ((一財)日本冷凍食品検査



講演会場風景

協会) が「食品の輸出入検査を支える分析技術の開発」について, 最後に伊勢村次秀氏 (AGC 旭硝子先端技術研究所) が「旭硝子がこだわり続ける分析技術～ニッチトップ技術で社業貢献～」と題して講演され, 安全・安心を守る力, モノづくりを支える力としての分析化学を紹介された。いずれの講演にも会場からの的を射た質問, コメントが寄せられ, 参加者の関心の高さがうかがえた。

(3) 特別シンポジウム

I. 「農工連携と分析化学」(9月14日午前)

[オーガナイザー：福嶋正巳 (北大院工), 最大聴講者数 30 名]

石黒宗秀 (北大院農), 田中福代 (農研機構中央農研), 森 勝伸 (群馬大院理工), 佐藤 久 (北大院工) の 4 名の講師の方々による講演が行われた。

II. 「医療に関する分析化学」(9月14日午後)

[オーガナイザー：竹中繁織 (九州工大), 最大聴講者数 63 名]

加藤功一 (広大院医歯薬), 井原敏博 (熊大院自然), 片山佳樹 (九大院工), 渡慶次 学 (北大院工) の 4 名の講師の方々による講演が行われ, 会場が狭かったせいもあり会場に入れられない人も出るほど盛会だった。

III. 「化学教育における分析化学の役割」(一般公開)
(9月14日午後)

[オーガナイザー：蠣崎悌司 (北教大札幌), 菅 正彦



展示会場



授賞式

(北教大札幌) 最大聴講者数 40 名]

山田幸司(北大院地球環境), 岩田吉弘(秋田大教文), 石田康行(中部大応生), 宮村一夫(東理大理) の 4 名の講師の方々による講演が行われ, 初等教育から高等教育まで, 分析化学が教育の分野で果たす役割について考えた。

IV. 「界面現象を解明する分析化学」(9月15日午前)
[オーガナイザー: 大津直史(北見工大), 最大聴講者数 80 名]

堀 隆夫(医科歯科大生材研), 肥後盛秀(鹿児島大), 辻 幸一(大阪市大), 渋川雅美(埼玉大), 大澤雅俊(長岡技科大) の 5 名の講師の方々による, 種々界面分析技術とその応用に関する講演が行われた。

V. 「環境に関わる分析化学」(9月16日午前)
[オーガナイザー: 齋藤 徹(北見工大), 最大聴講者数 50 名]

高貝慶隆(福島大理工), 長谷川 浩(金沢大理工), 南 尚嗣(北見工大), 内野栄治(北海道立衛研) の 4 名の講師の方々による講演が行われた。

4 付設展示会, ランチョンセミナー, テクノレビュー

フロンティア応用科学研究棟 1 階と 2 階のセミナー室にて, 付設展示会が開催された。今回の機器展示に 26 社 (26 ブース), 書籍販売 1 社, カタログ展示に 2 社の御協力を頂いた。本年会では, 若手と一般のポスター発表を同じ棟のセミナー室, エントランスホールとホワイエで開催したため, 展示会場は多くの来場者で賑わっていた。

大会期間中すべての日の昼に, 8 件のランチョンセミナーが開催された。お弁当を食べながら各企業の最先端技術や製品に関するセミナーを聞くことができる大変有意義な規格で有り, チケットが配布 30 分程度でなくなるほど, 大変好評であった。本年会では, テクノレビュー講演として口頭発表 2 件, ポスター発表 4 件が行われた。

5 学会賞等授賞式, 学会賞講演など

学会賞授賞式ならびに学会賞受賞講演は, 北海道大学工学部オープンホールで行われた。370 席余りの席がほとんど埋まった厳かな雰囲気のもと, 金澤理事の開会挨拶で式が始まった。鈴木孝治日本分析化学会会長の挨拶のあと, 学会賞 3 名, 学会功労賞 2 名, 奨励賞 4 名, 技術功績賞 2 名, 先端分析技術賞 (JAIMA 機器開発賞 4 名, CERI 評価技術賞 1 名), 分析化学論文賞 4 名, 有功賞 45 名にそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式の後, 北海道大学工学部前のさわやかな秋空の下で有功賞受賞者の記念撮影が行われた。その後 14 時 40 分より, 五十嵐叔郎氏, 渋川雅美氏, 豊岡利正氏による学会賞受賞講演が行われた。技術功績賞の金子 毅氏, 野村 聡氏, 奨励賞の北隅優希氏, 真栄城正寿氏, 田中 充氏, 田中 陽氏, JAIMA 賞の中 庸行氏, 石丸伊知郎氏, CERI 賞の佐藤浩昭氏, 分析化学論文賞の飯國良規氏の受賞講演は, 関連する一般講演会場で行われた。

6 懇親会

懇親会は, 2 日目の 18 時 30 分よりキリンビール園本館中島公園店 (札幌市中央区) で開催された (参加者 480 名)。これまではそれぞれに開催してきたミキサーと懇親会を同時に行い (懇親会として開催), 大御所と中堅と若手と学生と一緒にジンギスカンと生ビールを堪能しつつ懇親を深める催しとした。司会進行は, 南 尚嗣 (北見工大) と春木 心 (年会事務局) が務めた。田中俊逸実行委員長 (北大院地球環境) ならびに鈴木孝治会長からの挨拶の後, 来賓として名和豊春北海道大学工学研究院長ならびに栗原権右衛門日本分析機器工業会会長からお言葉を頂戴した。その後, 多賀光彦北海道大学名誉教授のご発声のもと懇親会が開宴した。会場には北海道を代表する地酒の一つである千歳鶴も用意され, 好評を博した。会の中程では, 山田幸司若手ポスター担当実行委員 (北大院地球環境) および久保溪女同委員 (日生バイオ㈱) による企画および司会進行で, 若手ポスター賞表彰式が行われた。受賞者は 500 名近い分析



懇親会

化学に携わる方々を前に、その栄誉を称えられた。

会の終盤では、次年度開催予定の第77回分析化学討論会の藤原 学実行委員長（龍谷大理工）および分析化学会第66年会の宮村一夫実行委員長（東理大理）より説明をいただき、懇親会は閉会した。

7 若手ポスター賞

若手企画としては、若手ポスターの審査と表彰が行われた。若手ポスターは、1日目の午前に73件、1日目の午後に74件、2日目の午前に71件の計218件の発表が行われた。計56名の一般会員の審査員の厳正なる審査の結果、各セッションの上位3名をRSCポスター賞、次点の2名を若手ポスター賞に選出した。さらに、別のセッションの若手ポスターの発表者を学生審査員とし、一般会員の審査員の結果と合わせて次に評価の高かった各セッションの発表者1名を学生審査員特別賞に選出した。各賞の表彰式は、2日目夜の懇親会で行われ、懇親会に参加したRSCポスター賞の受賞者にはRSC浦上博光日本マネージャーから、若手ポスター賞および学生審査員特別賞の受賞者には田中俊逸年会実行委員長から、それぞれ賞状および副賞が授与された。各賞の受賞者は、以下のとおりである（敬称略）。RSCポスター賞：鈴木哲仁（京大院農）、天田啓介（慶大院理工）、遠藤 新（福島大理工）、町田進之助（山梨大院総研）、安井 唯（関学大院理工）、中村 萌（関学大院理工）、深井菜緒（名工大院工）、前田友梨（名工大院工）、清水和也（東北大院理）。若手ポスター賞：中川太一（福島大理工）、遠藤拓也（東工大院理工）、主濱勇人（秋大院理工）、高山卓大（静岡県大薬）、本田暁紀（東理大理）、石井政憲（慶大院理）。学生審査員特別賞：岩崎真和（熊本大院自然）、関川留奈（長岡高専）、浅田麻帆（首都大院都市環境）。

8 その他

第7回生涯分析談話会〔世話人：田端正明（佐賀大）・長谷川佑子（東理大）〕が初日の午後に開催された。こ



若手ポスター賞授賞式

の談話会は、分析化学会員が退職後も学会に参加し、相互の交流と親睦をはかることを目的としており、今回は、那須淑子氏（北教大名誉教授）による講演と懇親会（APA ホテル 札幌）が行われた。

また初日の午後に、第9回女性研究者ネットワークセミナー〔世話人：金澤秀子（慶応大薬）〕が行われた。お茶とお菓子付きの和やかな雰囲気の中、「皆で広げよう女性研究者ネットワーク！」のもと情報交換会が行われた。また、託児所には1件の利用者があった。

広報活動としては東京の本部事務局で「展望とトピックス委員会」による記者会見と冊子「展望とトピックス」の配布が行われ、また実行委員会として北海道庁教育記者クラブにいわゆる投げ込み（年会の案内と冊子「展望とトピックス」の配布。約20機関）を行った。その結果NHKの取材があり、依頼講演の一つがNHKの全国ニュースで放送された。

9 おわりに

年會に参加された会員の皆様、ならびに展示に出展いただきました企業関係者の皆様には心より御礼申し上げます。主な会場となった北海道大学工学部では、講演会場が分散してしまい、また位置関係も分かりにくくなってしまった。またポスター・展示会場となったフロンティア応用科学研究棟もやや離れており、参加された皆様にはご不便をお掛けしたことをお詫び申し上げます。幸い、会期中は天気にも恵まれ、大きなトラブルもなく無事に年會を終えることができました。このことは、参加者の皆様のご理解と、長期にわたる準備と当日の運営等に携わっていただきました日本分析化学会北海道支部の皆様、本部事務局の皆様、ならびにアルバイトの学生の皆さまのご尽力のおかげです。また会場となった北海道大学工学部ならびにフロンティア応用科学研究棟の関係者の皆さまにも多大なるご支援いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

〔北海道大学大学院地球環境科学研究院 田中俊逸〕
〔北海道大学大学院工学研究院 谷 博文〕